

## 時局と在滿青年

※ 水 野 鎬

和國日本は東亞新秩序の建設を唯一の目標とし一億民心打つて一丸、凡ゆる困苦缺乏に打勝つて時代錯誤と敢然として戦ひつゝある、我が滿洲帝國は此の一翼として、日滿一體不可分の見地より、俸神的物質的の支援を成し、一方に於ては堂々新興國家として恥しからぬ逞しい躍進を續けてゐる。

日本の對滿國策たる開拓民は続々と大陸に進出し、民族大移動の光輝ある歴史的一頁は記されんとしてゐる。

此の段に當り、在滿青年の決心と覺悟や如何に、と考へて見る時、一言なかるべからずといつた感がする。

我々は眞に建國精神の體得者であり、複合民族の指導者であらねばならぬ。そして燃ゆるが如き熱誠をも本、協和の實踐者として、民衆に接し、以て彼等を感化せねばならぬ、と同時に我々の常に忘れてならぬ事は日本人として據すべき國策的使命であり、大陸第一線の先驅者として果すべき責任である。

我々が去る日肉親と別れを先けた時のあの感激と、大陸第一歩のあの印象を忘却する事なくんば何も心配は要らぬが、然し乍ら大陸に生活し、次第に大陸の實情が分つて來ると、當初の熱情的氣分が薄らぎ、一生を大陸建設に捧げ、大陸の土たらんとした烈々たる氣魄が缺けてゆくやうに思はれる。

そして質實剛健、獨立自尊の氣概は何處の國

へか吹き飛んで、享樂を追ひ、不攝生を事としたずらに技葉末節に拘泥して大綱を忘れるといつた輩が見受けられるのは心あるものにとつては残念至極である。

「英雄色を好む」なんといふ半世紀も昔の古看板を掲げて得意になつたり、戀愛を遊戯として耽溺したり、粹た女に酌をさせ、いやに煙草をふかして見た所で果してどれ丈の慰安が得られよう、眞の慰安はそんな安つばい所に轉つていそうには思はれぬ。

斯る類廢的浸潤せる空氣が少しでもあるとするならば、此の際斷呼として除去し、身を以て範を示し、氣を以て事を行ひ、至誠人を動ずといつた型の青年が一人でも多く出て來て言論に行動に青年たるの本分を十二分に表現して然るべきだと思ふ。そして我々青年は物質的方面にのみ心を奪ふ事なく、高尚なる精神の修養に努力し、革新的氣分を抱き、生活改善に盡すは勿論我々の能力を最高度に發揮し、遲疑せず逡巡せず、熱烈なる民族的國家的、意識に灼熱して奮然として起ち上るべく心掛ねばならぬと思ふ。

我々青年たるものよろしく艱難をさけ、安逸に就くの態度を廢し、現在の如き沈滞せる空氣を一變し、青年は青年たる所以を心に銘記すると共に、空々漢々大言壯語はやめて勇往不退轉の信念を持ち、在滿青年として荷せられたる偉大なる使命に醒むる所なければならぬと思ふ一言以て所感を披瀝心ある者の反省を希望す。